

# 令和二年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

## 「公的保険と私たちの生活」

奈良学園中学校 三年 山田 大貴

今年の春にアメリカで新型コロナウイルスの治療費として一億二千万円も請求された男性がいると知りとても驚いた。その男性の治療費の大半は公的保険によってカバーされるそうだがもしも公的保険がなければどうなっていたらう。急に一億円もの金額を払える人はどの国であろうと多くない。つまり、公的保険が無いととても困ってしまうということだ。そこで公的保険について調べてみた。

まず、公的保険には五種類あることが分かった。健康保険、年金制度、介護保険、労災保険、雇用保険の五種類だ。すべてに共通することは、必要不可欠だということだ。日本では健康保険に入っていれば高度な手術や治療をうけない限りいきなり一億円を請求されるということはないが、それは当たり前ではなく税金と国の制度のおかげだと理解した。もし税金の制度が無ければ、国から保障をうけられずに苦しむ人がたくさんいる。それを助けてくれるのが国の役目であり、税を納めるのが私たちの役目だと思った。

今回、こうして税金について調べるまでは税金についてはお金のやり取りなどに課されるものという漠然とした認識しか持っていなかった。しかし、調べた後は私たちが当たり前前に生活していくために国が考えてくれているとても素晴らしい制度だと感じた。今まで税金を払った対価が中学生にも分かりやすく返ってくるわけではなかったのであまり実感がわかなかったが、国民の生活を良くしていく為のものであると理解した。

また、今までは「消費税増税」と聞くと、深い意味も知らずに嫌なイメージを持っていたが、今回の学習によって、社会福祉制度をより充実させるためにはある程度の増税も必要なのではないかと考えが逆に変わった。ただただ「増税反対」と一つの見方のみにするのではなく、多方面から物事を見ることによって増税による良い事と悪い事をきちんと把握してから意見を言うべきだと思った。

これからの時代は感染症、少子高齢化、地球温暖化などの様々な多種多様な問題と共存または解決していく必要があるため、税金の使い道というものがとても重要になると思う。その使い道に興味を持ち確認してみるのも国民の義務であると思うので、これから生活していくときは身近に使われている税金について関心を持ち、広い視野で物事を見ていきたいと思う。